

今回の個別フォローは、まず先日アドバンスクラスで出た「男性の嫉妬」について話をした。職場の人数が少ないこともあって、ダイレクトに男性から嫉妬される機会が少なかった。だけど、言われてみれば、あれもこれも嫉妬が原因だったのかと思い当たることがあり、そういうどうにもならない不満を抱えたくないがために、目を背けて来たのだと思った。

陽子さん曰く、人間の原理原則レベルのことなのだと言うが、「東京ラブストーリーの頃からずっと言われてることじゃん」と。たしかに恋愛において、男性が女性より優位に立ちたいと思ってるのはわかる。めちゃめちゃわかる。知ってたのに、それを仕事に転用できていなかつた。自分の視野の狭さに驚くが、それも「川岸の出来事」としてシャットダウンして来た弊害なのだろう。私は20代30代の頃、交友関係に多くの時間とお金を投じて来たけど、それが視野の広さやストックに結び付いていないことが、今さらながら悔やまれる……ただ、陽子さんの音声で職場での面談の話を聞いて思うが、ストックって人間の本質を知ることで、結びつくのだと思う。表面上の会話をしていても、ストックにはならないのだと。そういう意味では、私にストックが増えなかつたのも納得だし、陽子さんが個別フォローの中で繰り返し「蓄積」という言葉を使っていたけど、何かを取り入れよう、積み重ねようという目的意識の差もあると思った。

そして、不満を手放すための取り組みとして、先日仕事であったとあるメーカーとのやり取りを例に話をした。「でも」、「だって」を多用する営業担当にイラっとしかけたが、相手の話を聞くよう心がけたら、最終的にはこちらの事情にも耳を傾けてくれたという内容だった。**私としては、不満を対処できたという成功事例として話したつもりだったの**だけど、陽子さんからは、「“でも”、“だって”という言葉を言わせてるのは、Eちゃんだ」というフィードバックをもらってはっとした。相手がその言葉を使うのは、防御態勢に入っている=反論しないと責められると思っているということだ。1ヶ月前に提案をもらったばかりの商品が、採用が決まってできないってどういうこと?と思ってしまった訳だが、「どうしたの?」と普通に状況をたずねる分には、相手が“でも”、

“だって”を使う必要がない。「何でできないんですか？」と責めるような口調になっていたから、相手が防御態勢に入ってしまったんだろう。

陽子さんが「できないとどうして困るの？」「手札は他にないの？」と、具体的に質問して状況を整理してくれた。「最終的にその商品ができなくなったりとして、売上げとしていくら損失があるの？」と。計算してみたら、たいした金額ではなく(他でいくらでも挽回できる)、その金額のために怒っていたというよりは、こちらの想定外の対応に腹を立てていたことに気が付いた。(せっかく採用決めて来たのに、できないって…という)

腹が立った時、自分が何に対して怒っているのか。それがわかっていないことは案外多い。具体的になることで冷静になれるのだと、プロセスと一緒に踏んでくれたことで、理解できた。

その上、今回メーカーができないと挙げた理由に対して、「同様の方法で作られている他の商品もできない可能性が高いんじゃないの？」と、私が見えていなかった部分まで指摘してくれて、ストックつてこうやって増やしていくんだというのを目の前で見せてもらった。(陽子さんは一緒に働いている訳じゃないのに、どうしてこんなにうちの会社のこと(仕事のこと)がわかるんだろう?と思う)

そして、最後に「しゃべりたいことしゃべってる？」と聞いてくれた。1番話したいと思っていた不満の話ができたので私としては満足を感じていたのだが、先日ジャーナルに書いた、「自分のため」から「社会のため」に意識が変わって来たという話を聞いてもらった。

以前にも個別フォローで、まず自分を満たすステージがあって、次に人のため、社会のためと、ステージが移っていくという話をしてもらったことがあったけど、何年か越しにその感覚がわかるようになった。

陽子さんからは常に“人間関係は50:50の関係”だと教えてもらって来たけど、自分の50を自分で満たせるようになつたら、次は相手の50を満たす関りができるかどうかなのだと。私は自力で100満たすことを目指していたけど、残りの半分は相手のために使うイメージなんだな。

自分の中では話そうという段階にもなっていない程、ものすごくふわっとした状態だったのだけど、陽子さんに話したことで、次のステージが輪郭を伴って見えて來た。

今回も現状の課題から次のステージの話まで、色々な話をありがとうございました！陽子さんという常に先を示してくれる存在がいることを有難く思う。ただ、そこに辿り着くのはあくまで自分自身なので、憧れだけじゃなく、手を動かし続けようと思いました。

(E.M 40代女性 埼玉県)